

- 問1 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。 | 2. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。 | 3. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。 | 4. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。 |
|--|---|---|--|
- 問2 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。 | 2. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 | 3. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 | 4. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 |
|---|--|---|--|
- 問3 山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。 (2019年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。 | 2. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。 | 3. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。 | 4. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。 |
|---|---|---|--|
- 問4 縄文時代の人々が、遮光器土偶に見られるような独特な形をした土製品を多く製作した理由として、当時の社会背景から考えられる背景はどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 金属器がまだ普及しておらず、全ての調理器具や狩猟道具を土で作る必要があったため。 | 2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出するための芸術性を追求したため。 | 3. 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。 | 4. 強力な王が国を統一し、自分の権力を誇示するために同じ形の像を大量生産させたため。 |
|---|---|--|---|
- 問5 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された | 2. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた | 3. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった | 4. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|--|
- 問6 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。 | 2. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。 | 3. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。 | 4. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。 |
|--|---|--|--|
- 問7 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 土偶 | 2. 銅鐸 | 3. 石包丁 | 4. 埴輪 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問8 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|--------|-------|
| 1. 磨製石器 | 2. 打製石器 | 3. 青銅器 | 4. 鉄器 |
|---------|---------|--------|-------|
- 問9 縄文時代の遺跡から出土する、表面に縄目の文様が施されたり、大きな眼鏡のような目を持つ「遮光器土偶」などの土製品について、その当時の使われ方として最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。 | 2. 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、寺院の内部を飾るための仏像として使われた。 | 3. 亡くなった豪族の墓である古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めるために使われた。 | 4. 稲作が普及した社会において、収穫した米を保存するための頑丈な容器として使われた。 |
|--|--|--|---|
- 問10 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。 | 2. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。 | 3. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。 | 4. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。 |
|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
- 問11 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 1. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため | 2. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため | 3. 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため | 4. 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため |
|-------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
- 問12 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。 | 2. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。 | 3. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。 | 4. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の実などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問2	答え 3 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問3	答え 1 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	「縄文の女神」は、山形県の西ノ前遺跡から出土した縄文時代を代表する土偶です。土偶は縄文時代特有の遺物であり、その造形からは当時の人々の高い技術力や、精神世界を知ることができます。弥生時代に広まった青銅器や、古墳時代の埴輪とは、製作された時代も文化的な背景も明確に区別されます。
問4	答え 3 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。	縄文時代は自然の産物に依存した生活を送っていたため、気候変動による食料不足や病気は死に直結する大きな脅威でした。科学的な知識が限られていた当時、人々は「祈り」を通じてこれらの問題を解決しようとしていました。そのため、女性の生命力を象徴する土偶などを通じて、食物が豊かになること（豊穡）や、部族の繁栄を願う呪術が発達したと考えられています。
問5	答え 2 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問6	答え 1 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。	約1万年前に氷河期が終わり気候が温暖になると、日本の植林や動物の生態が変化し、人々は定住生活を営むようになりました。この時期に登場したのが、より精巧な磨製石器や、食料の調理・保存に欠かせない土器です。打製石器は旧石器時代から継続して使われましたが、磨製石器の普及は縄文時代の大きな技術的特徴です。
問7	答え 1 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問8	答え 1 磨製石器	旧石器時代には石を打ち砕いただけの打製石器が使われていましたが、縄文時代に入ると用途に合わせて表面をみがき、形を整えた磨製石器が普及しました。この変化は、定住生活の開始や土器の使用といった生活様式の大きな転換と密接に関わっています。
問9	答え 1 食物の豊穡や安産、病気の回復などを願うための、呪術的な道具として使われた。	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムの信仰を持っていました。土偶はその信仰に基づき、女性をかたどることで生命の誕生や食物の豊穡を祈ったり、体の一部をわざと壊すことで身代わりとして病気の治癒を祈ったりする目的で作られました。古墳時代に作られた「はにわ」や、弥生時代以降の貯蔵用土器とは、製作された時代も目的も異なります。
問10	答え 2 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	縄文時代には、竪穴住居をつくり一定の場所に定住する生活へと変化しました。移動しながらの生活では持ち運びが困難な土器や土偶の利用、長年のゴミ捨て場である貝塚の形成は、この定住生活と深く結びついています。
問11	答え 3 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため	縄文時代、人々は定住生活を送る中で、採集した木の実や捕らえた獲物を調理する必要がありました。土器の出現によって、食料を「煮る」ことが可能になり、それまで食べられなかった硬い食材が食べられるようになったほか、食料の保存性も高まりました。
問12	答え 3 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の実などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の実を煮てアークを抜いたり、煮炊きをしったりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。